

第3次省エネ・エコオフィス実践プラン21

(羽生市地球温暖化対策実行計画・事務事業編)の実施状況等について

1. 令和3年度の総括

令和3年度における本市の事務事業に係る「温室効果ガス排出量」は、7,767 t-CO₂となり、基準年度である平成25年度の排出量8,641 t-CO₂と比較して、874 t-CO₂(▲10.1%)の削減となりました。これには、施設の省エネ化改修の推進や契約している電力会社の排出係数の低下などが影響しています。

今後は、これまでの取組を着実に推進するとともに、公共施設における再生可能エネルギーの導入や環境配慮契約を推進し、温室効果ガスの排出量の削減に努めてまいります。

【温室効果ガス排出量の推移(年度別)】

年度	排出量 (t-CO ₂)	削減量 (t-CO ₂)	増減率 (%)
平成25年度 (基準年度)	8,641	—	—
令和3年度 (今回算定)	7,767	874	▲10.1
令和12年度 (目標値)	4,666	3,975	▲46.0

2. 原因別活動量と温室効果ガス排出量及び要因分析

【原因別(活動の種別)活動量(エネルギー使用量など)】

原因(活動の種別)		単位	平成25年度 (基準年度)a	令和3年度 b	基準年度比 b/a
燃料の使用	ガソリン	L	46,069	27,566	59.8%
	灯油	L	165,624	140,226	84.7%
	軽油	L	22,442	25,379	113.1%
	A重油	L	381,000	369,000	96.9%
	LPG	kg	21,814	18,295	83.9%
電気の使用		Kwh	13,409,448	13,372,004	99.7%
一般廃棄物の焼却		t	13,796	13,750	99.7%
その他	自動車の走行	km	630,129	407,853	64.7%
	浄化槽によるし尿等	人	4,089	4,089	100.0%
	下水処理	m ³	33,997	34,775	102.3%
	カーエアコンの使用	台	128	137	107.0%

【原因別（活動の種別）温室効果ガス排出量】（二酸化炭素に換算、単位：t-CO₂）

原因（活動の種別）		平成25年度 (基準年度) a	令和3年度 b	基準年度比 b/a	令和3年度 構成比
燃料 の 使用	ガソリン	107	64	59.8%	0.8%
	灯油	412	349	84.7%	4.5%
	軽油	58	66	113.8%	0.8%
	A重油	1,033	1,000	96.8%	12.9%
	LPG	65	55	84.6%	0.7%
電気の使用		6,591	5,866	89.0%	75.5%
一般廃棄物の焼却		248	247	99.6%	3.2%
その他		127	120	94.5%	1.6%
計		8,641	7,767	89.9%	100.0%

【主要な項目の要因分析】

- 『燃料の使用』において、『ガソリン』の減少及び『軽油』の増加の主な理由は、消防のガソリン車が軽油車に更新されたことによるものです。また、『ガソリン』の減少は、感染症拡大により出張等による走行が減少したことも要因と考えられます。
- 『電気の使用』において、使用量よりも温室効果ガス排出量が大きく削減されているのは、電気事業者の排出係数の違いによるものです。平成25年度及び令和3年度に共通して利用している電力会社の排出係数が年々低下しており、また、令和3年度は排出係数の低い別の電力会社も一部で利用しています。『電気の使用』は、温室効果ガス排出量全体のうち、約75%を占めているため、本項目が全体の削減量に大きく寄与しています。

3. 今後の措置・取組

本市の温室効果ガス排出量のうち、約75%を占める『電気の使用』を削減することが特に重要となります。施設の統廃合による適正配置や省エネ化改修、太陽光など再生可能エネルギーの導入に向けて取り組みます。また、排出係数の少ない再生可能エネルギー由来の電力を使用することも効果的であるため、環境配慮契約を推進します。